

岐阜県消防広域化推進計画（案）への県民のご意見、県の考え方

<p>ご意見の概要 (補足)●は個人等が特定されないための表記です</p>	<p>県の考え方</p>
<p>消防は、火災から国民の生命、身体、財産を保護し、その他の災害による被害を軽減することを目的としており、そのためにどうあるべきかが重要です。</p> <p>消防本部・消防署は、市町村と一体になり、また消防団とも密接にコミュニケーションをとり、地域密着型の活動をする事が大切であると思います。あまり広範な地域では、全体を把握するのに無理が生じないでしょうか。</p> <p>私の暮らす市町村においては、1市1本部で、きめ細やかな住民サービスを行う点、規模的にも最適な状態にあると思います。消防団も1市1消防団で消防本部、消防署とも一枚岩で活躍しています。</p> <p>よって、現状が一番良い状況であると思います。</p>	<p>消防は、市町村の自治事務となっていますので、当県におきましては、「市町村の意見を十分にお聴きし、その結果に従って、計画の策定に取り組むことを基本」としています。</p> <p>ご意見をいただいた市町村につきましては本計画では広域化対象市町村となっておらず、いただいたご意見と同じ状況となっております。</p> <p>また、今後、今回の計画で広域化の対象となっていない市町村に関して広域化を検討する場合におきましても、引き続き市町村の意見をお聴きして取り組んでまいりますので御理解くださるとともに、当該市町村の消防体制が広域化以外の方法でも充実強化できますよう、引き続き、県民の皆様の御協力をお願いいたします。</p>
<p>今般、国が進める消防の広域化で、岐阜県でも広域化の計画案が進めようとしています、私は「何を今更」と言いたい。</p> <p>私がかつて岐阜県消防指導員を務めていた頃、県下には100の市町村であり、当時から私は30市町に収斂(しゅうれん)すべきと思っていたが、誰も先駆けになる男がいなかったし、県も黙っていた。</p> <p>幸い、私が暮らす市町村は、過去に複数の消防団が一つに統合され、地域の発展とともに、常備消防も着実に充実し、人口も大変多くなりましたが、消防本部・消防団、さらに消防ボランティア組織が一枚岩となり、消防防災の最前線で活躍できる組織となっており、何も過不足はありません。</p> <p>今まで全然汗もかかず、苦勞もしなかった市町村との広域化には、●会の総意をもってご遠慮申し上げます。</p>	<p>(同上)</p>

岐阜県消防広域化推進計画（案）に対する県民のご意見、県の考え方

ご意見の概要	県の考え方
<p>計画(案)の新聞報道を見て最初に感じたのは、市町村の意見で今後の組合せが決まったのだなということです。実際に計画(案)を見て、その印象を強くしました。広域化に取り組む考えのある市町村の組合せで広域化を進めるのが今回の考え方のようです。</p> <p>広域化を進めるという意見の市町村の中には、法改正もあり県内全域で取り組むものとして方針を決めた市町村もあると思いますし、二つの組合せの市町の中にも、どちらでも良かったという思いのところもあるのではないのでしょうか。また、現状維持の市町村は、今のままで良いということが県から認められたと思われたのではないのでしょうか。</p> <p>心配しますのは、二つの組合せの市町の中には、広域化に取り組む意欲の低下を招かないかということです。</p> <p>まず、県内全域の組合せを推進計画で示し、新年度に組合せの市町村で、「広域消防運営計画」策定に向け、同じ土俵の中で話し合いを持ってもらうようにできないかと思えます。</p>	<p>消防は、市町村の自治事務となっていますので、当県におきましては、「市町村の意見を十分にお聴きし、その結果に従って、計画の策定に取り組むことを基本」としています。</p> <p>ご提案いただきました「県内全域」という組合せについてですが、市町村からいただいた意見によりますと、「現状維持」と考えている市町村が16、また近隣の市町村との広域化を考えている市町村が28(重複有り)という状況にあり、「県内全域」を実現するために、42のすべての市町村が賛同されるのは困難な状況にあると考えています。このことは、有識者等による岐阜県消防広域化推進計画検討委員会においても同じ見解となっております。</p> <p>しかしながら、広域化は、市町村の消防における課題を解決するうえで有効な手段でありますことから、現段階では、推進計画でお示した地域において、広域化により、着実に消防体制を充実強化していくことが重要であると考えています。</p>
<p>広域化には賛成していますが、推進計画(案)で示された組合せのうち、西濃地域では1市3町(人口約12万人弱)の小規模な組合せとなっており、重複投資の回避や職員の有効利用、出動範囲の見直しにより隣接地域での到着時間の短縮などの効果は見込まれるが、西濃地域全体を対象にした場合に比べ大きなメリットが期待できないと思う。</p> <p><西濃地域で広域化する場合のメリット></p> <p>① ポンプ車を一次出動で多数出動させ被害拡大を防止するとともに、出動した署所の空きは、周辺の署所で広くカバーする</p> <p>② ①のような体制を敷くことで、勤務者で対応できるようにし、非番・公休の召集を減らす</p> <p>③ JR東海道線を南北の仕切りとして、中心となる署(現有施設の活用)を2署位置付け、その署には、専門要員による後続応援車両(高性能車両)を配置する <北側の署では、山間部に対しての人員・資機材等への配慮が必要></p> <p>④ 署所の体制を最適化して、その効率化された人員は専門分野に専念させ消防力を強化する</p> <p>⑤ 人員が477名になれば、人事ローテーションによる適正配置、効果的な訓練、研究への専念などが行える</p>	<p>今回、広域化の組合せにつきましては、地域の事情を把握されている市町村において、現状及び今後の消防行政のあり方について検討されており、県ではその判断結果に基づいて組合せをまとめましたところ、西濃地域では、1市3町において広域化に取り組んでいただく組合せとなっております。</p> <p>なお、広域化が目的とする消防体制の充実強化は、消防に携わる者が常に取り組みなければならない課題ですので、広域化の対象となっていない市町村においては、広域化を含めた検討を今後も重ねていただき、その際には、ご提案の組合せも考慮していただくよう助言等に努めてまいります。</p>